

平良港 港湾計画 一部変更

平成22年11月15日
交通政策審議会
第39回港湾分科会
資料3-3



計画変更箇所

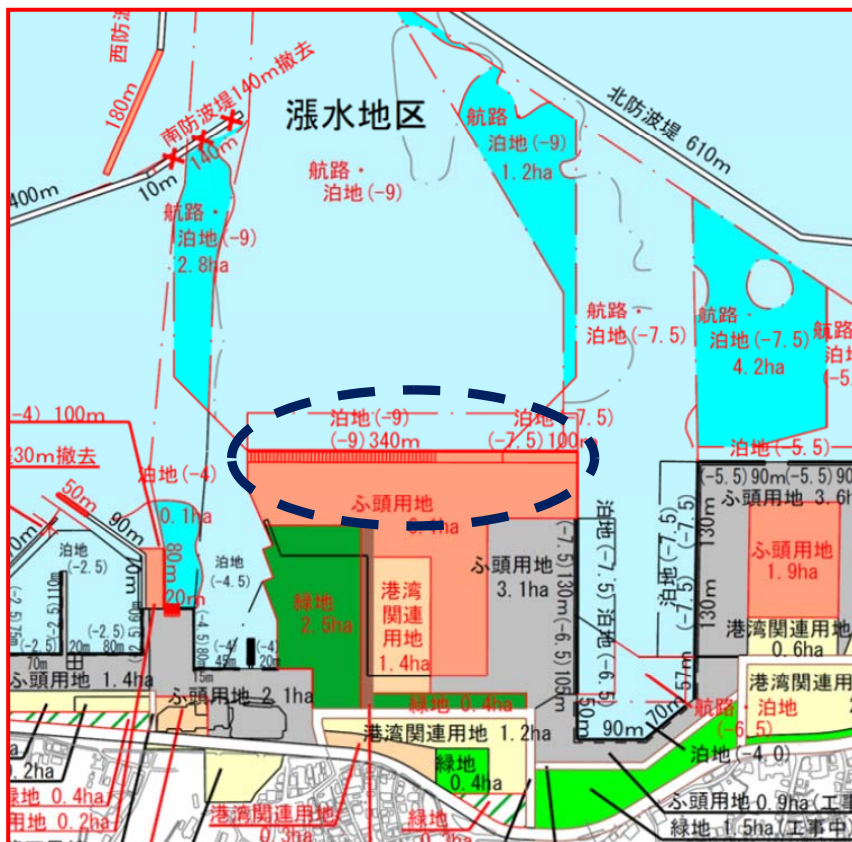
トゥリバー地区

下崎地区

漲水地区

平良港計画図(既定計画と今回計画)

既定計画



今回計画



- ・定期RORO船の大型化が進み、寄港時における安全性の確保を図る緊急性が顕在化。
- ・既定計画における整備手順を踏まえ、今回、岸壁(-7.5m)100mと岸壁(-9m)340mの岸壁配置を入れ替える。

平良港現状の利用状況

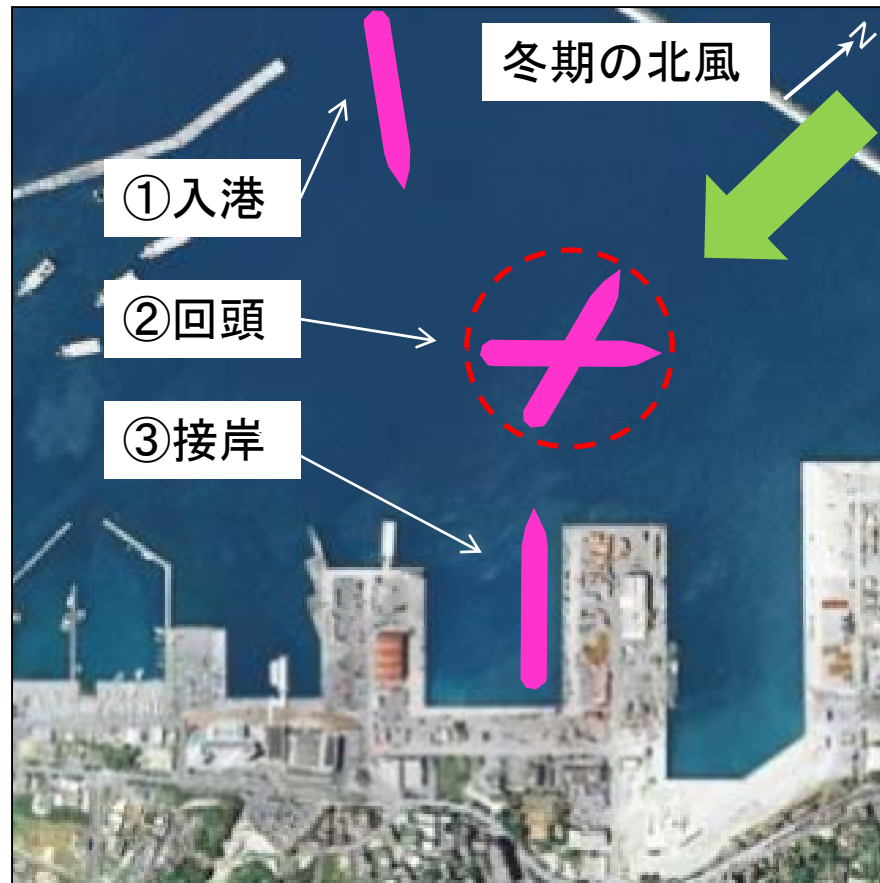


図1:現状の接岸状況(RORO船)



図2:冬季の強風を受けて、岸壁に接触した状況

- ・くし形の埠頭のため、RORO船等が接岸する際、埠頭より離れて回頭する必要あり。
- ・冬期、北側から強風が吹くため、回頭する際、安全性が問題となっている。

漲水地区における埠頭利用方法

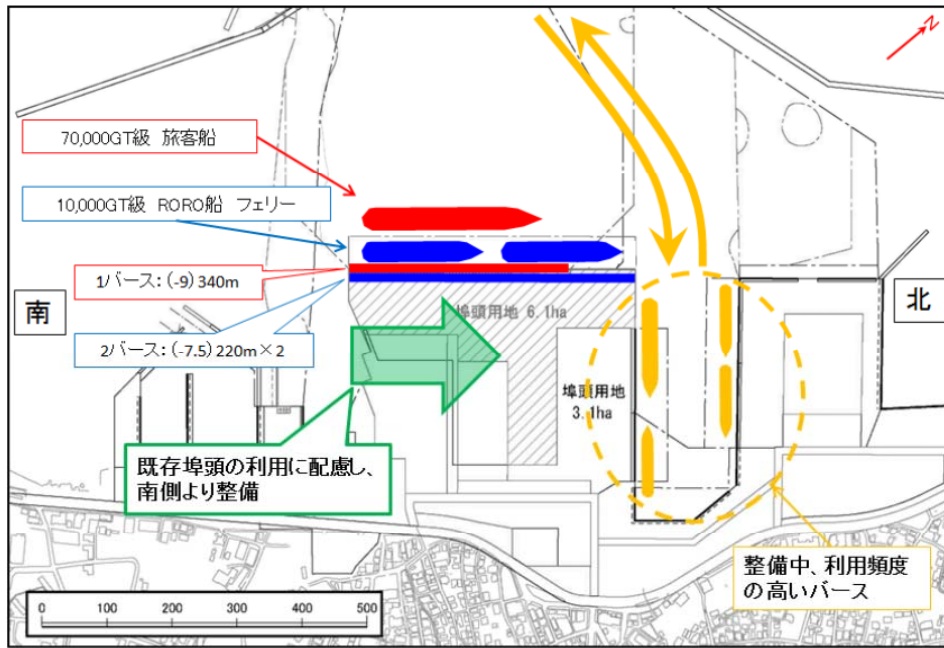


図3: 既定計画

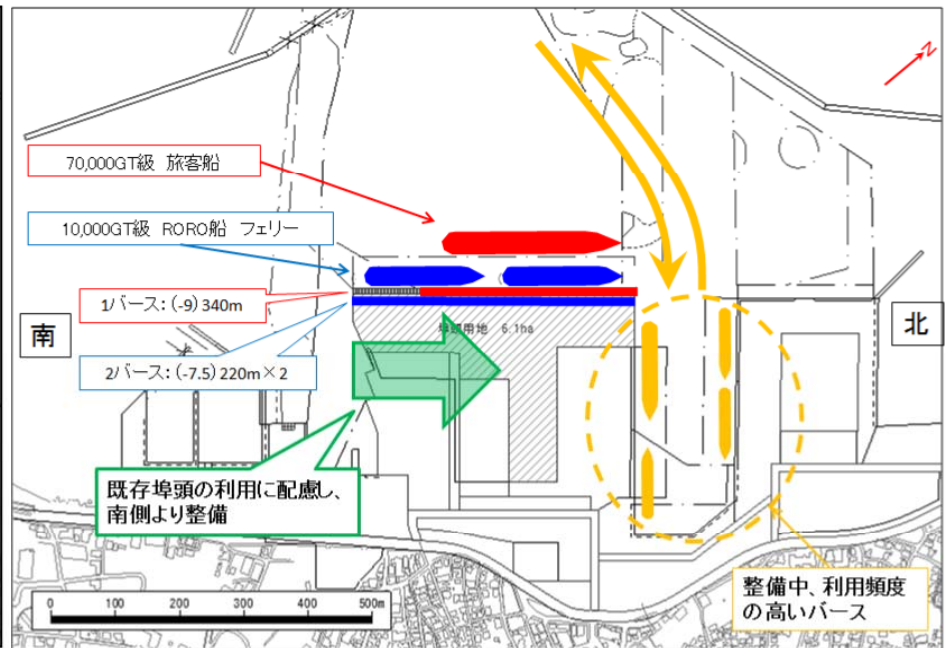


図4: 今回計画

RORO船とクルーズ船の需要の変化

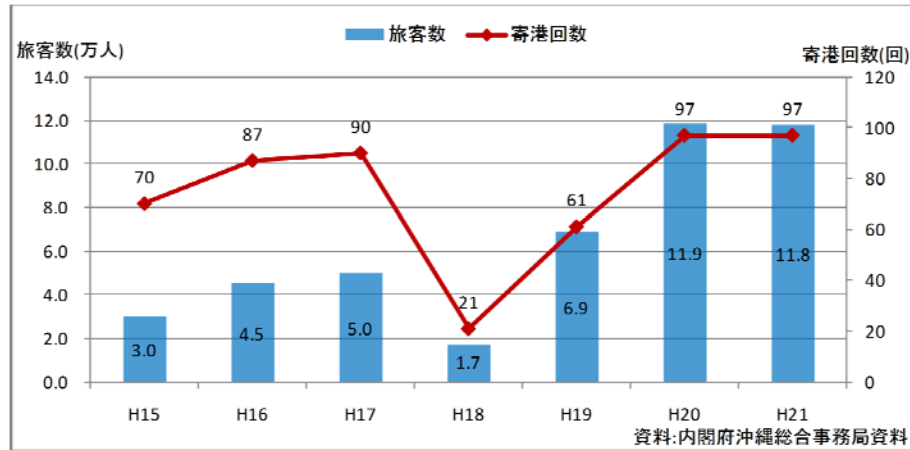


図5: 沖縄におけるクルーズ旅客数とクルーズ船寄港回数の推移

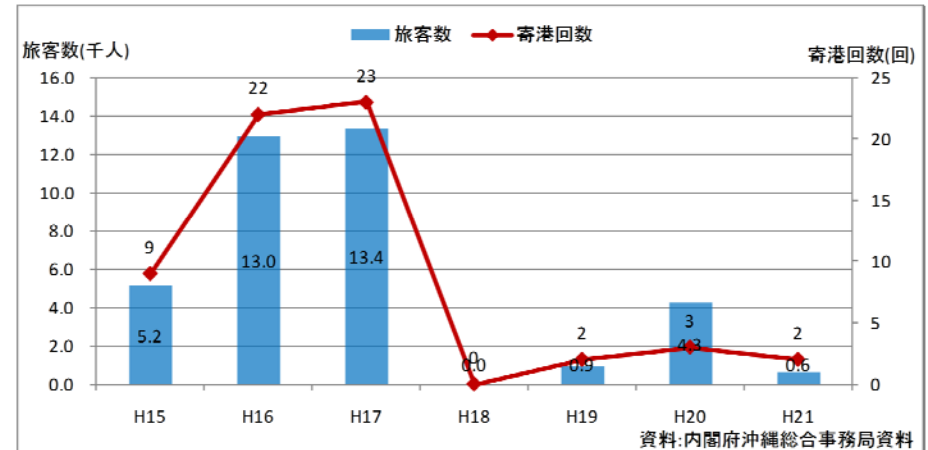


図6: 宮古島(平良港)におけるクルーズ旅客数とクルーズ船寄港回数の推移

表1: RORO船(定期便)のリプレース状況

寄港地	運航船社	寄港頻度	リプレース状況
那覇～平良～石垣	琉球海運	3便/週	みやらび(5592GT、1995年就航) → みやらびⅡ(10184GT、2010年就航)
			にらいかない(5724GT、1997年就航) → (10000GT級、2013年リプレース予定)
			しゅれい(6562GT、2000年就航) → (10000GT級、2016年リプレース予定)

離島の生活を支えるRORO船輸送

表2: 取扱貨物量(移入)における品目別割合

	建設系 (砂利・砂、石材、石灰石、セメント)	輸送関係 (完成自動車、その他輸送用車両、二輪自動車、その他輸送機械)	エネルギー系 (重油、石油製品)	食料関係 (米、野菜・果物、製造食品、飲料、水、たばこ、その他食料工業品)	日用品関係 (がん具、衣服・見廻品・はきもの、文房具・運動娯楽用品・楽器、家具装備品、その他日用品)	取合せ品 (取合せ品)
離島(重要港湾)	26.9%	14.1%	25.8%	4.5%	2.0%	6.8%
全国	22.4%	11.1%	18.8%	0.8%	0.2%	2.2%

※フェリー貨物を除く

※港湾統計2007、2008より

離島港湾における生活必需品は、海上輸送に依存しており、そのほとんどはRORO船輸送になっている。



図7: RORO船(みやらびⅡ)による輸送貨物(平成22年7月7日 平良港)

確認の視点

確認事項	国としての確認の視点
	基本方針 ※
定期RORO船の安全な入出港 確保のためのバース位置変更	<p><u>地域の暮らしを支える機能の確保</u></p> <ul style="list-style-type: none">・離島及び地方における日常生活や地場産業を支える港湾は、周辺の港湾と相互に連携しつつ効率的かつ安定的な海上輸送ネットワークを形成して、地域の暮らしを支えられるように、地域の特性に配慮した機能を確保する。・特に、離島においては港湾が地域の生活に不可欠な交通基盤であることから、就航率の向上等輸送の安定性の確保に努める。

※港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針